

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（1月24日-30日）の新規陽性者数は、6,851人（先々週 8,289人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は0.86 [最小値0.50-最大値1.10]、このうち那覇市の実効再生産数(R)は0.89 [0.58-1.04]でした。また、宮古は0.84 [0.59-1.18]、八重山は1.48 [0.37-2.96]でした（図1）。八重山を除いて、沖縄県の流行はピークを越えたものと考えられます。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10歳未満が1,034人（15%）と最多ですが、先々週の1,211人から減少しています。次いで40代1,009人（15%）、30代1,008人（15%）と続きます。性差では、30代、40代において女性が多いことが先週に引き続いた特徴となっています（図2）。

先々週から先週にかけての増減率をみると、70代で25%の増加となっている以外は、10代および20代を中心に全年齢で減少に転じています（図3）。なお、70歳以上の高齢者の新規陽性者708人のうち、疫学調査で確認できた感染経路で最多だったのは家庭157人（22%）であり、次いで介護施設148人（21%）でした。

保健所管区別・市町村別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部381人（先々週577人）、中部2,554人（先々週2,933人）、那覇市1,486人（先々週1,683人）、南部1,868人（先々週2,643人）、宮古135人（先々週195人）、八重山363人（先々週240人）でした。八重山を除いて、緩徐ではありますが減少が続いています（図4）。なお、県外からの渡航者は60人（0.9%）でした。

人口1万人以上の市町村別（人口10万人あたり7日間合計）では、多い順に糸満市811、豊見城市732、南風原町691でした（図5）。この他、石垣市において増加速度が高く、先々週の2.2倍でした。石垣市では小児での感染が多いことが特徴です。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（1月30日時点）で456人と1週間前より55人増加しています。酸素投与など中等症患者は283と1週間前より44人増加しています。また、気管挿管など重症患者は5人でした。この他、社会福祉施設で療養されている陽性者が268人おられ、1週間前より21人増加しています（図6）。新規陽性者数は減少に転じていますが、医療と介護への負荷は増加し続けています。

年齢階級別入院受療率

1月1日から30日までに診断確定した患者32,058人について入院の有無を確認したところ、40歳未満で入院を要する方の入院受療率は、0.3%から2.2%の範囲ですが、年齢とともに入院受療率

は上昇する傾向にあり、70代 19.3%、80代 36.3%、90歳以上 35.9%となっています（図7）。また、HER-SYSにおける報告によると、1月中の死亡は5人であり、年齢階級別では90代4人、70代1人でした。

ワクチン接種回数別に入院受療率を比較すると、40-59歳、60-79歳、80歳以上のどの階級においても、3回接種者は2回接種者より低く（統計学的有意差なし）、2回接種者は未接種もしくは1回接種者よりも低く（統計学的有意差あり）なっています（図8）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県内での感染者数は、1月以降の第6波において3万人以上の感染を確認しています。ただし、1月中旬をピークとして感染者数は減少しており、今週以降、入院患者数についても減少に転ずるものと考えられます。

ただし、高齢者での流行は続いており、とくに介護施設での集団感染が次々に発生しています。1月30日現在、入院することなく施設内で療養を継続している感染者は、51施設 239人にも及びます。これらの施設に医師や看護師が出向くことで治療を行っています。医療と介護側の視点では、いまだ厳しい状況が続いており、気を緩めることはできません。

オミクロン株が主流となり、若者にとっては軽症で推移することがほとんどです。その一方で、高齢者にとっては、80歳以上で3割以上が入院を要する状態となっており、いまだ脅威の感染症であると言わざるを得ません。決してオミクロン株を軽視するべきではありません。

コロナウイルスによる肺炎もありますが、基礎疾患の増悪や細菌性肺炎の合併を多く認めています。インフルエンザがそうであるように、合併症による重篤化まで含めた医療対応が求められています。また多数の感染者が発生することにより、全体では軽症者の比率が高くとも、医療への負荷は過大となっていきます。

自衛隊やジャパンハートなどのNGO、全国から駆け付けてくださった医療従事者の支援のもと、沖縄県の地域医療は支えられてきました。今週以降は徐々に負荷が軽減されるものと期待され、再

流行を抑止しながら（とくに高齢者を守りながら）活動再開させていくことが必要です。

また、重点措置で実施された自粛要請のうち、科学的にみて有効であった、実効性があったと考えられるものを峻別し、社会負担に比して効果は低いと考えられるものについては、重点措置の終了を待たずに解除していくことも検討を要します。第6波の経緯を分析してきた、一連の本報告を参考としていただければと思います。

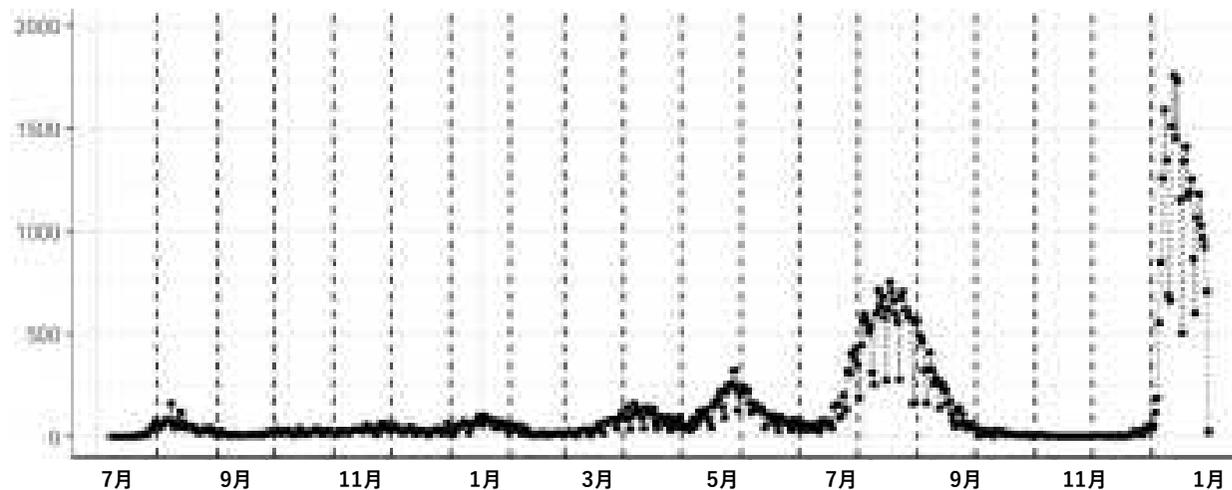
今週の新規陽性者数は、4,000-6,000人と見込みます。全体では減少が続きますが、高齢者の減少には時間がかかると考えられます。また、今週末までに入院患者数は450-500人に至ると見込みますが、社会福祉施設における集団感染で、そのまま施設内での療養が選択されるようになっていることもあり、想定よりは入院患者数が抑制される可能性があります（図9）。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）

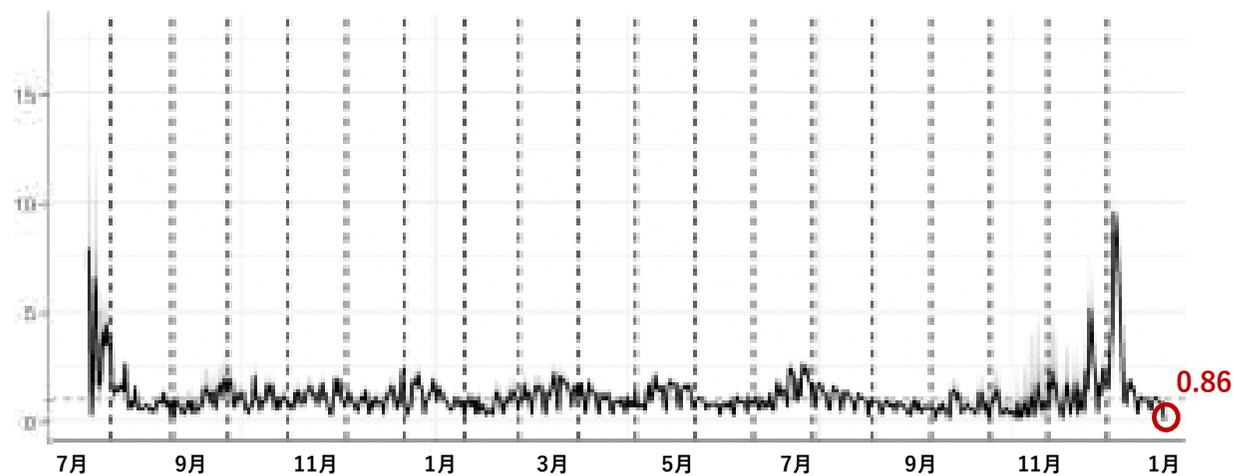


図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (1月24日～30日)

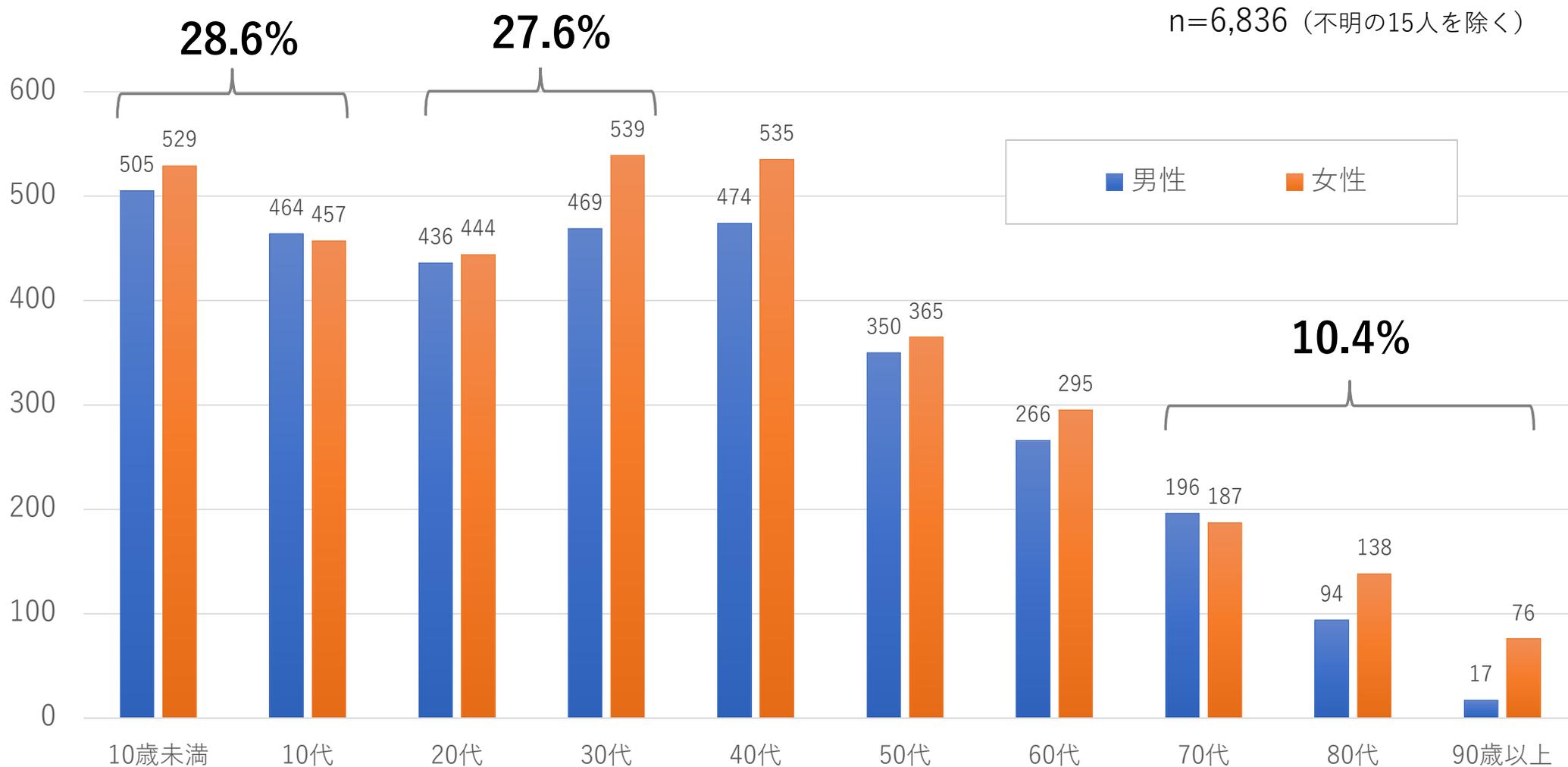


図3 年齢階級別に見る新規陽性者数の増減率（7日間合計値の前週比）

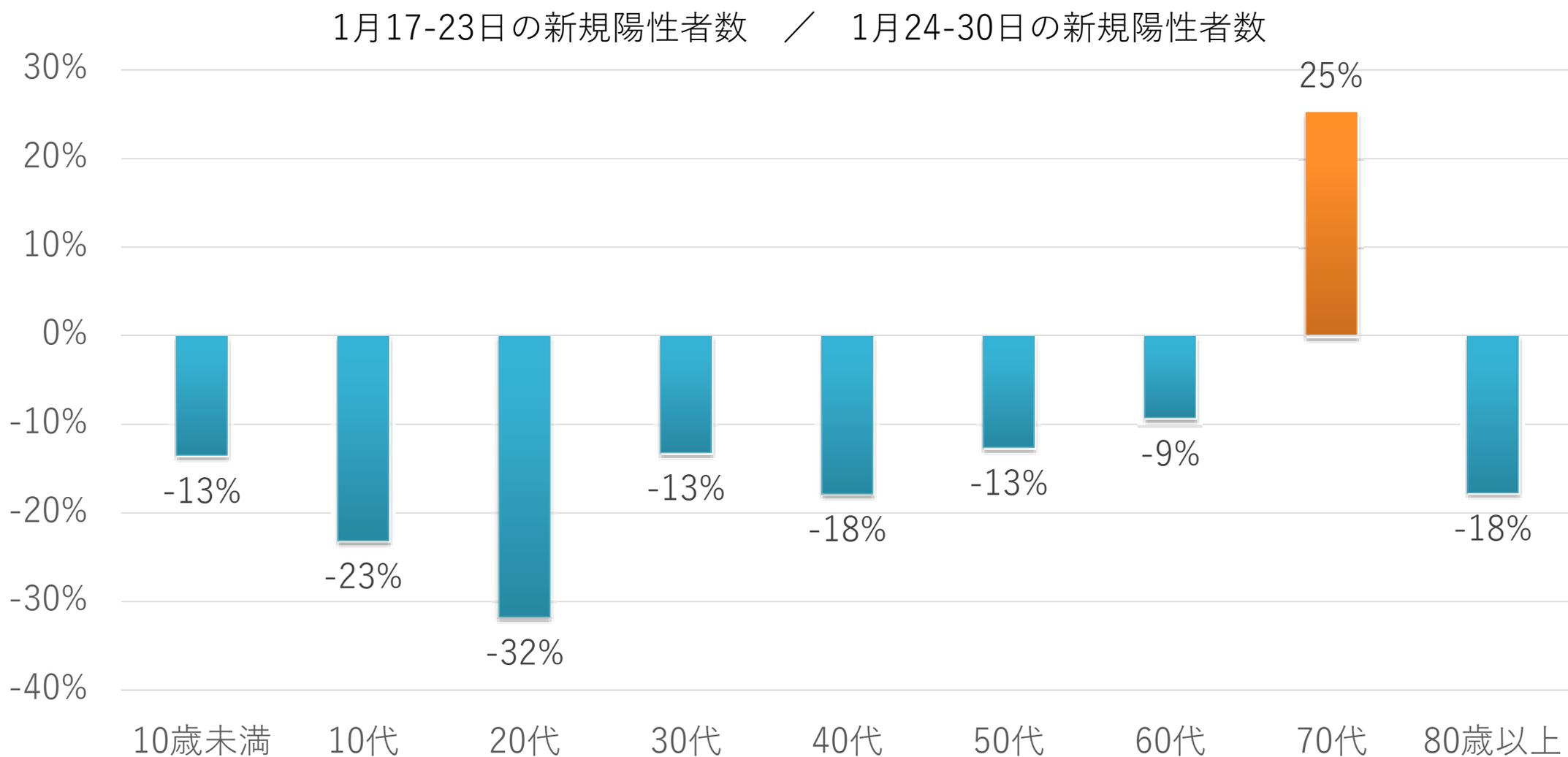


図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移

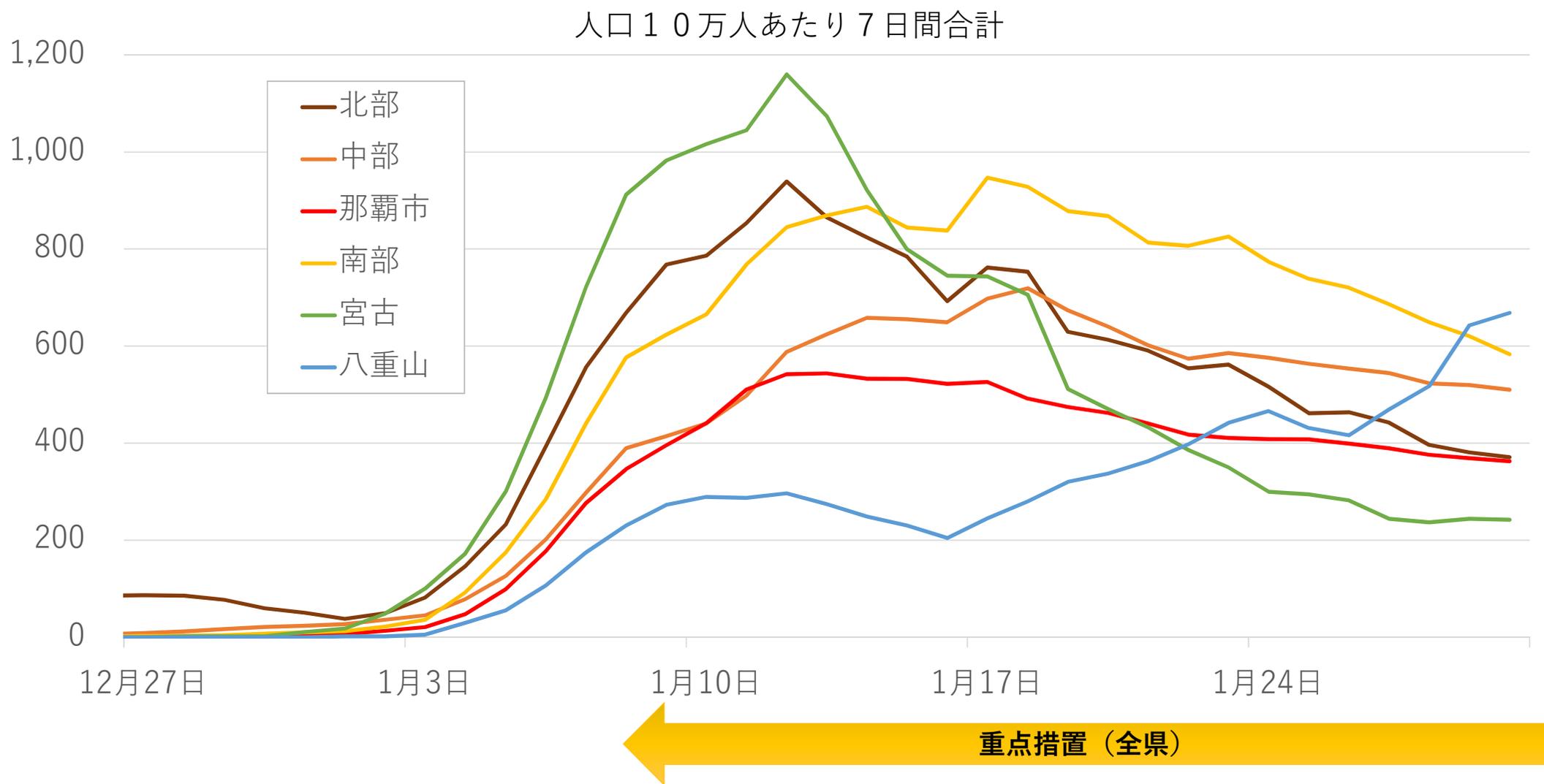


図5 沖縄県・市町村別ヒートマップ（1月24日～30日）

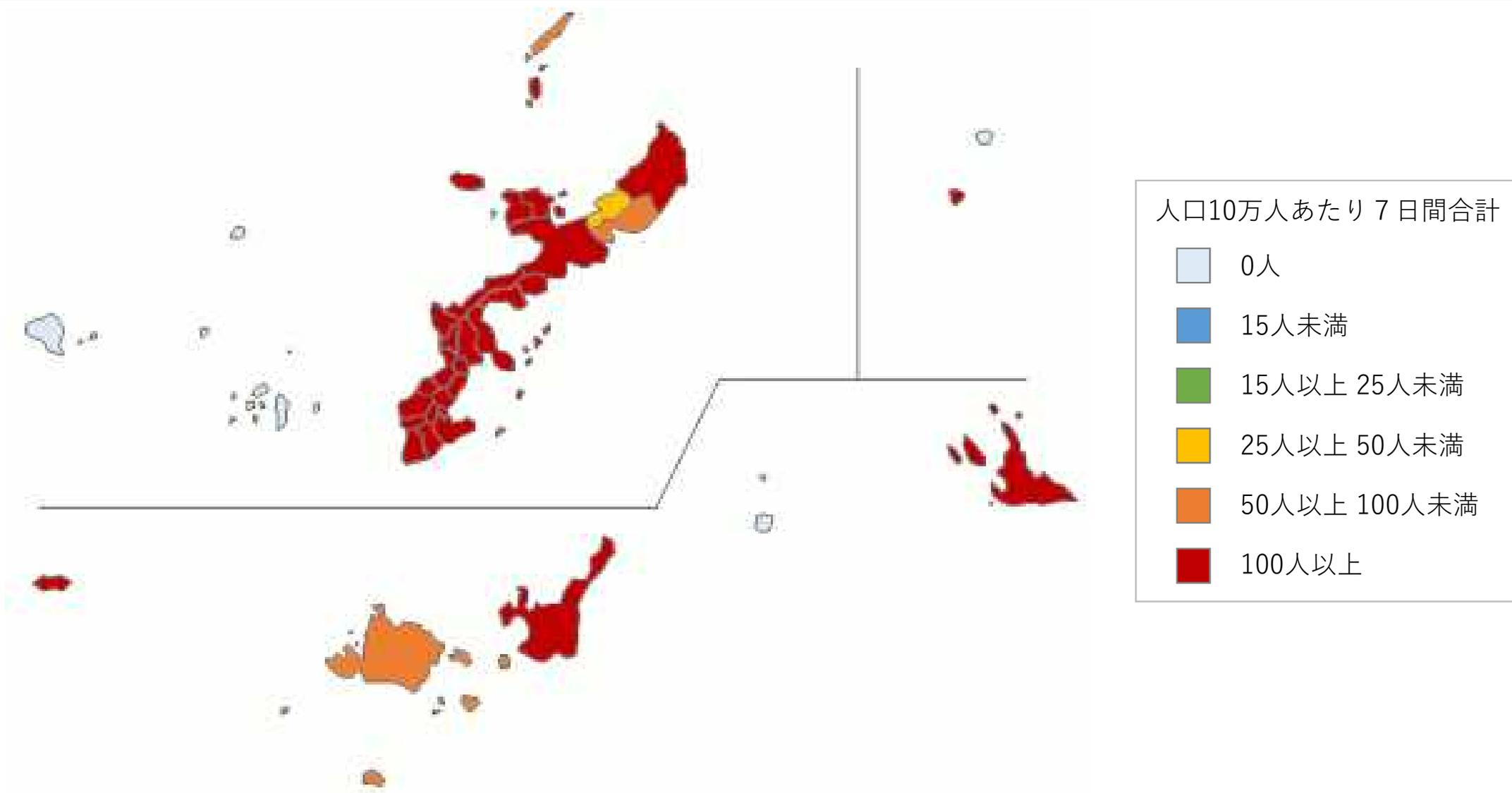


図6 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

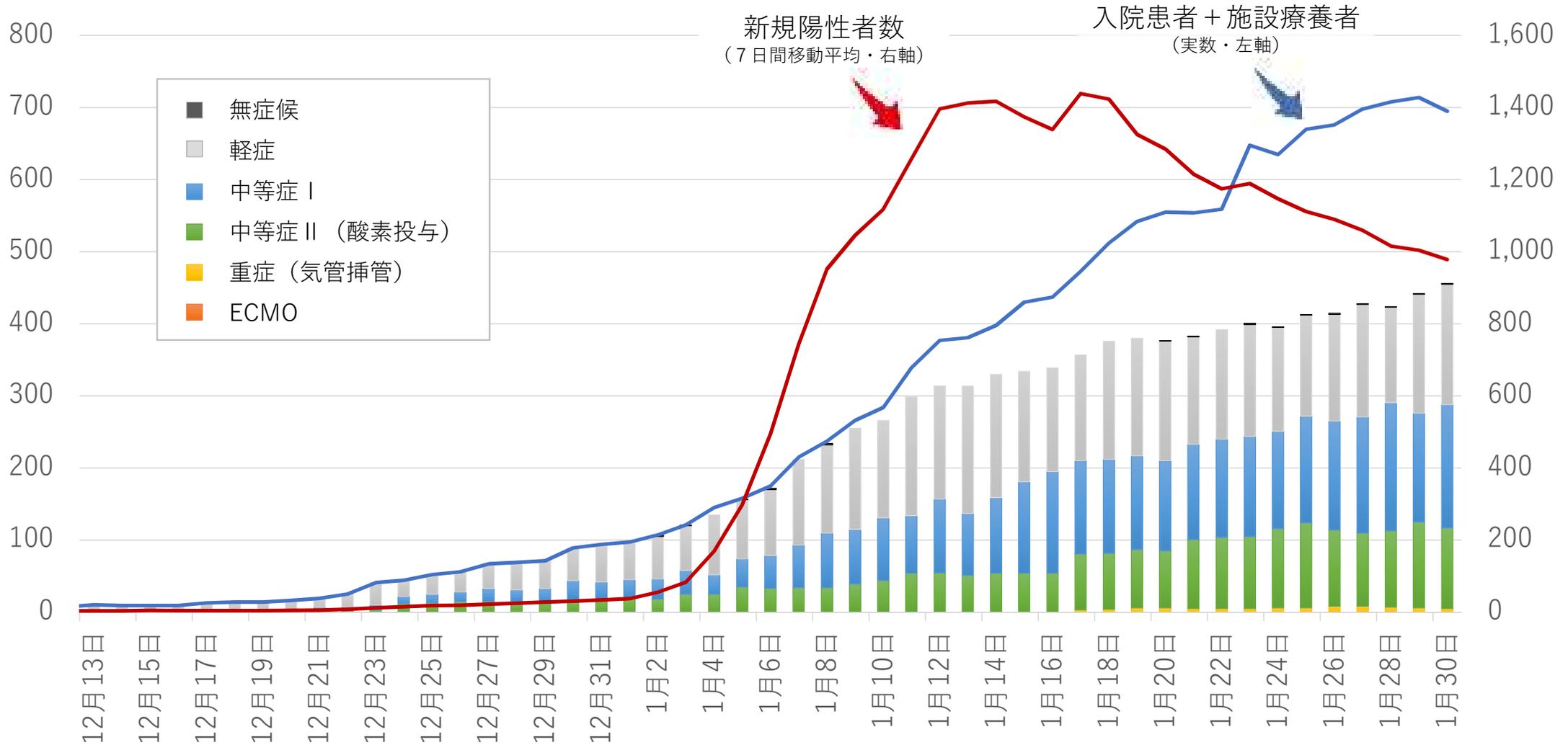


図7 年齢階級別入院患者数と入院受療率

2022年1月1日から30日までに診断確定した患者32,058人について入院の有無を確認した。

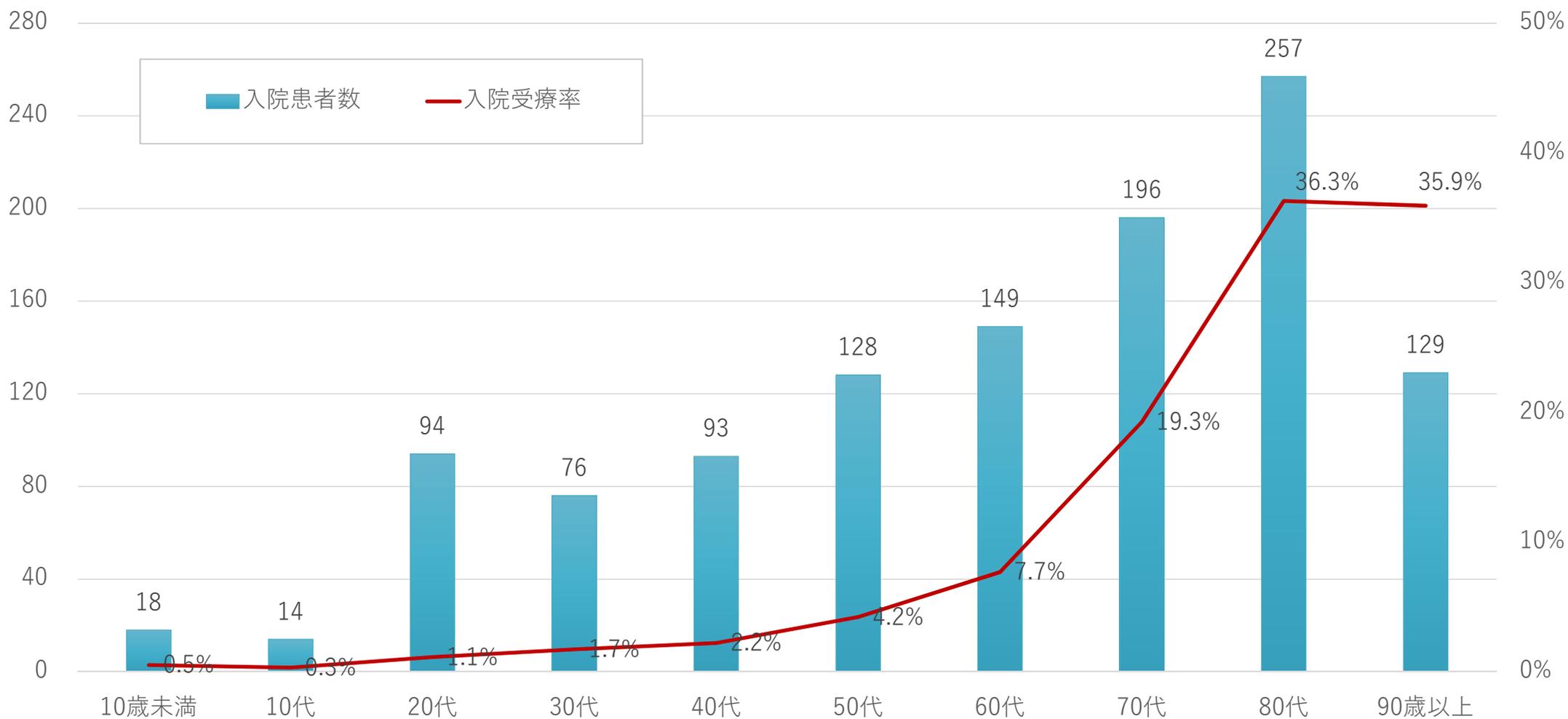
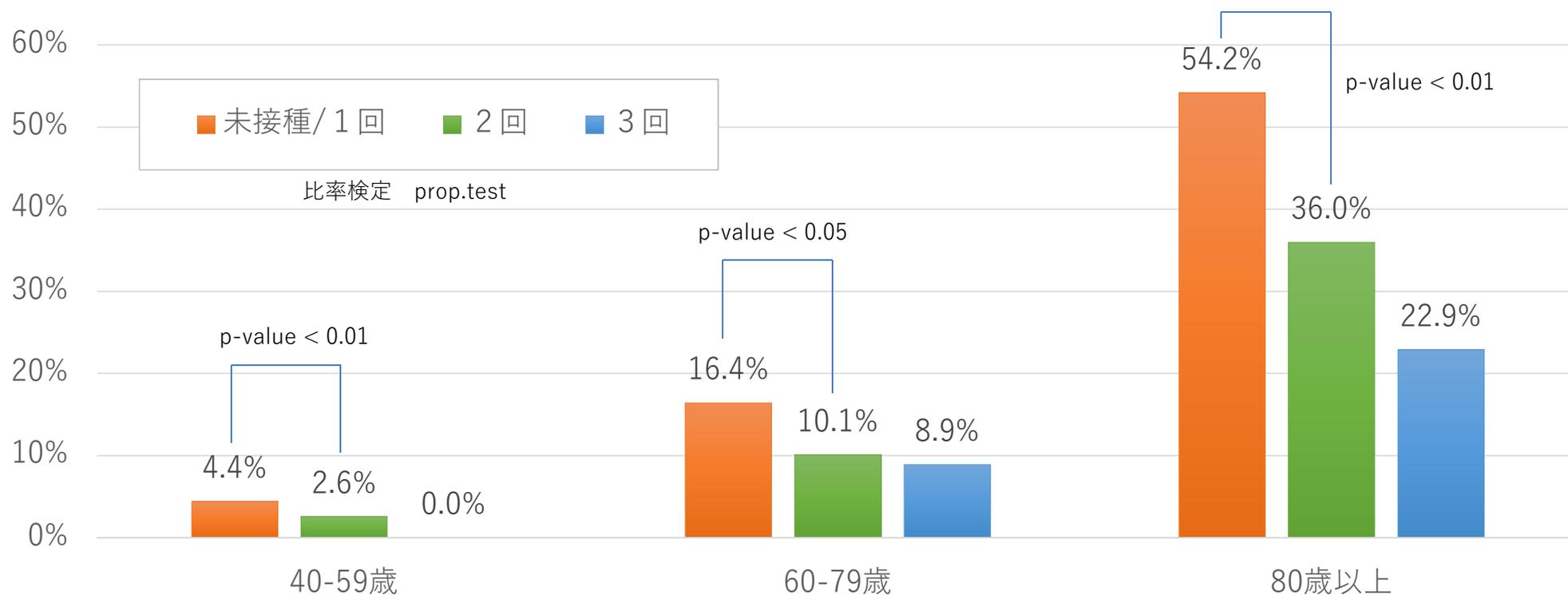


図8 ワクチン接種回数別にみる年齢階級別入院受療率

2022年1月1日から30日までに診断確定した患者32,058人について入院の有無を確認した。



	40-59歳			60-79歳			80歳以上		
	未接種/1回	2回	3回	未接種/1回	2回	3回	未接種/1回	2回	3回
陽性者数	1,003	3,310	93	189	1,598	45	72	420	35
入院数	44	85	0	31	161	4	39	151	8

図9 今後1週間（1月31日-2月6日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）				入院患者数※				重症患者数※			
	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
北部	194	391	787	1,586	51	58	69	89	0.6	0.6	0.6	0.7
中部	1,288	2,594	5,224	10,519	121	155	209	300	0.7	0.7	0.7	0.8
那覇市	748	1,506	3,033	6,107	110	132	168	227	1.9	1.9	1.9	2.0
南部	986	1,985	3,997	8,050	111	140	188	267	0.0	0.1	0.1	0.2
宮古	67	135	272	547	19	22	27	36	0.0	0.0	0.0	0.0
八重山	173	349	703	1,415	19	22	27	36	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	3,456	6,960	14,016	28,224	431	529	689	955	3.3	3.3	3.4	3.6

※ 2月6日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会